

## 課題管理実施報告書

報告日：10年 1月 4日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進
課題名	日本と中国の廃棄物管理コミュニティ形成支援のための中日資源循環・廃棄物対策会議
実施日	2008年12月4日(金)～12月6日(日)
場所	福岡市(福岡ガーデンパレス)、水俣市(山海館)
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他( ) 展示物：有(機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他( )) ○無
対象者	一般 学生(中学・高校・大学) ○その他(廃棄物専門家)
来場者	人数：32名、(内訳 日本側専門家8名、中国側専門家13名、オブザーバー11名)
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 メディア取材 プレスリリース HP, ○メール発信 その他( )
実施者	○実施取り纏め者 九州大学大学院 教授 島岡 隆行
内容	<p>○実施内容</p> <p>中国全土(6行政区：東北、華北、華東、中南、西北、西南)およびわが国の廃棄物研究者による廃棄物およびリサイクルの現状に関する発表が行われた。中国側専門家の発表では、東北地域においては、遮水工や浸出水処理施設を持たない非衛生的な簡易処分場が多数存在することが報告され、埋立地浸出水による周辺環境への汚染に関する報告がなされた。華北地域においては、資源ごみのリサイクルネットワークが整備されつつあるものの、非効率な回収拠点の配置、小規模な資源回収施設へ大量の回収品が流入し処理しきれずに山積していること、低水準の資源回収技術に起因する2次汚染などの問題が報告された。華東地域においては、清掃工場や最終処分場の建設用地の確保が住民反対によって非常に困難となっているため、清掃工場と最終処分場を離島に建設し、ごみを水上輸送する案が検討されていること等が明らかとなった。また、不法投棄の問題が多発しており、不法投棄現場において深刻な環境影響が発生していることが明らかとなった。西南地域においては人口が集中する都市部において発生するごみに対して処理施設(衛生埋立地等)の容量が絶対的に不足しており、ごみの不適正処分に起因する環境汚染が懸念されていることがわかった。西北地域は乾燥帯に属しており降雨量が極端に少なく浸出水による地下水汚染のリスクが比較的小さいことが報告され、多雨地域で使用される多重の遮水構造ではなく簡単に低コストで遮水構造が必要とされていることがわかった。以上のような問題に対し、日本あるいは中国の専門家(他地域の専門家)から、対策への助言や提案がなされた。また、今回の発表およびディスカッションの内容に基づき、両国における廃棄物処理やリサイクルの現状、課題、今後の展望をとりまとめた専門書を分担執筆し、英文図書として出版することに合意した。</p> <p>両国の専門家の交流の場としてのコミュニティの構築のための議論を実施した。今回の交流により多くの情報を共有することができたが、廃棄物分野は進歩がはやいので、情報が劣化しないようにできるだけ定期的に交流の機会を設けることに合意した。今後は、6行政区から開催地を選出し、会議の主催を持ちまわりで担当していく</p>

	<p>こととなった。次回以降の会議では、重要なトピックを選定して基調講演を実施することとなった。また、今回同様の発表会も実施するがその際には、発表内容を①環境政策、②再利用・再生利用、③中間処理、④埋立処分、⑤レメディエーションに区別することとなった。</p> <p>また、日本の公害問題の原点ともいえる水俣病に関する資料館を見学し、日本の公害とそれを克服してきた歴史について学び、環境問題の経験について理解を深めた。</p>
<p>効果、問題点、今後の展望と課題</p>	<p>○実施した効果</p> <p>中国の各地（6行政区）から、その地域における第一線級の研究者に参加していただくことができ、トップレベルの専門家を擁するネットワークの構築ができた。</p> <p>○ 実施上の問題点</p> <p>ネットワークの維持のためには定期開催が不可欠である。次年度は、西南交通大学（劉丹教授）の主催により、中国の成都市での開催が決まった。ただ、その後の開催案は未定である。</p> <p>○ 今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題</p> <p>中国各地における廃棄物処理上の問題点として、上述したような内容が明らかとなった。問題点の解決に向け、会議の場におけるディスカッションにより助言できる点もあったが、さらに踏み込んだ検討については、個別の問題ごとに日本－中国、あるいは中国同士の研究者間で情報交換をしていくこととなった。一例として、中南大学の何教授からの要請により、次年度以降、同教授が九州大学に訪問研究員として短期滞在し、廃棄物中の有害物質の測定方法等に関する技術の習得や知見の交換をすることとなった。</p> <p>日本は留学生30万人計画を策定し、海外の優秀な人材を受け入れることを目指している。中国の優秀な留学生を紹介していただく場としても今回構築したコミュニティを活用していくことを了承していただいた。たとえば、学生の発表の場を設けることを検討していくこととなった。</p> <p>両国の廃棄物処理における現状、課題、展望をとりまとめた英文専門書の分担執筆にも合意できた。今後は形成したコミュニティを活かして、最新情報のアップデートおよび整理した情報の公開（出版等を通じた）方法についてさらに議論する必要がある。</p>